

# 八郎潟干拓地における社会関係の 評価に関する基礎的研究 —社会ネットワーク分析を用いて—

農業農村工学会大会講演会 9月20日(木)  
○榎原良樹\* 中島正裕\*\* 増永佳乃\*

\*東京農工大学大学院

\*\*東京農工大学大学院農学研究院



## 1. 背景と目的

### 1.1 背景・問題意識

戦後直後の食料難 → 国営干拓事業

最大の定住型干拓地: 八郎潟干拓地(大潟村)(1964)

地縁・血縁のない「ゼロ」から農村コミュニティが誕生

90年代以降, 高齢化・人口流出による地域活力の低下

⇒ 総合計画において非農家の入村を推進する施策

(村営住宅設置や宅地分譲など)

混住化社会におけるコミュニティのあり方を考える必要

### 1.2 先行研究と研究目的

大潟村におけるコミュニティに関する先行研究

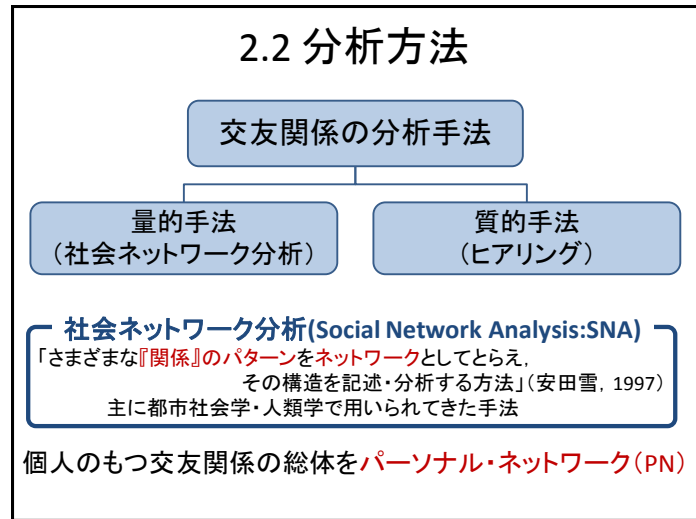
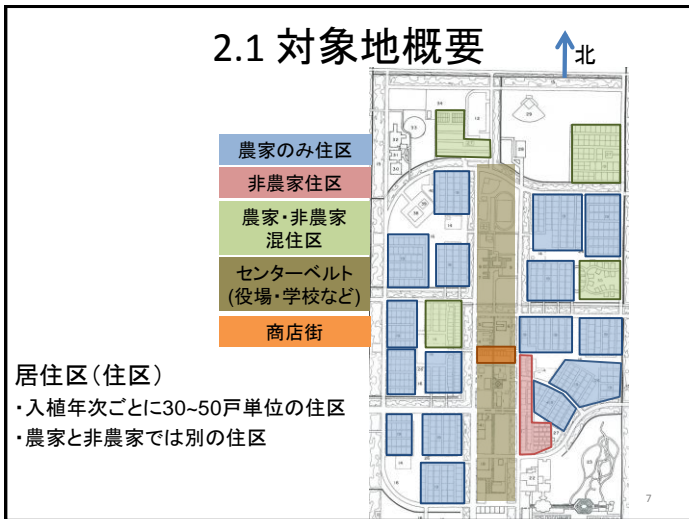
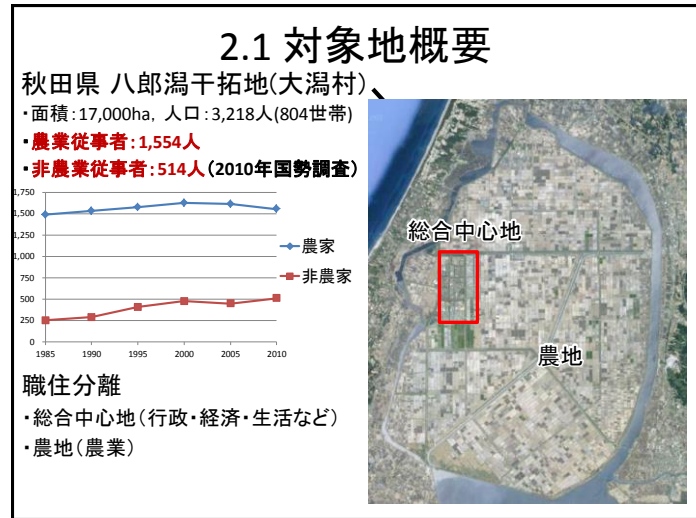
松岡 (1991), 地域コミュニケーション研究会(1975a) (1975b)

・農家の交友関係にのみ着目 ⇨ 非農家を含めては未解明

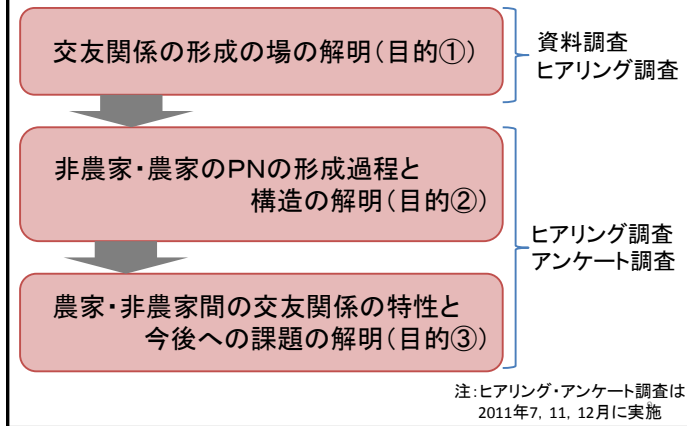
・個人の交友関係の形成過程・構造に着目したものもない

#### 目的

- ① 交友関係の形成の場の解明
- ② 農家・非農家のもつ交友関係の形成過程と構造の解明
- ③ 大潟村における混住化社会の成熟に向けた課題の解明



## 2.3 研究フロー



### 目的①

## 3. 交友関係の形成の場の解明

| 調査方法    | 主な調査項目          | 調査対象                    |
|---------|-----------------|-------------------------|
| 資料調査    | 入植事業の概要         | 事業団史<br>統計資料<br>議会だより   |
|         | 村・各団体の交流活動の概要   |                         |
|         | 非農家入村促進事業の概要    |                         |
| ヒアリング調査 | 資料調査の裏付け・不明点の解決 | 行政担当者<br>農家8名<br>非農家11名 |
|         | 農家同士の交流概要       |                         |
|         | 非農家同士の交流概要      |                         |
|         | 農家・非農家間の交流概要    |                         |

11

## 3.1 農家・非農家間の交友関係の変遷

### 1970～1980年代:意識面での“壁”

- ・入村当時の『非農家』という言葉
- ・「一時はあまりの差別に非農家からも村議員を出して対抗しようという話もあった」(あんばいこう, 1991)

### 現在:意識面での“壁”を越えた交流

- 入植1世代の非農家:長年の付き合いを通じて  
・「農家の方に助けられて、PTAの仕事も任せられるようになって、村の一員になったんだなって」
- 入植2世代の非農家:世代交代の中での価値観の変化  
・「農家も畑に勤めているサラリーマンという感覚」

一方で

- 未だに住区が異なることの“壁”(空間面の“壁”)  
・「勤め人の人とほとんどあわないからね・・・」
- ライフサイクルでの“壁”(時間面の“壁”)  
・「休みが違うからサークル活動に参加できない」

### 3.2 交友関係の形成の場の分類

| 交友関係の形成の場 | 場の内容  |
|-----------|---|
| 仕事        | 農家 営農グループ、営農研究会、販売組織など<br>非農家 役場、農協、会社、商店街など    |
| サークル      | 芸術文化協会の加盟団体(37団体)、<br>体育協会の加盟団体(21団体)、県人会、同郷会など |
| 住区自治会     | 住区単位での自治会、住区活動など                                |
| 自治組織      | 婦人会、青年会、老人会、消防団など                               |
| 子供        | PTAや子供の部活動の手伝いなどを通じて                            |
| 学校        | 学生時代のクラス・部活動など                                  |

### 4. 非農家のPNの形成過程と構造の解明 (目的②)

| 分析対象者 |       | ヒアリングの主な調査項目 |                              |
|-------|-------|--------------|------------------------------|
|       | 男性 女性 | 1            | 個人のライフヒストリー                  |
| 商店街   | 2名 1名 | 2            | 所属している・していた組織 (名前、意欲、きっかけなど) |
| 役場職員  | 0名 1名 |              |                              |
| 元農協職員 | 1名 0名 |              |                              |
| 学校教員  | 1名 1名 |              |                              |
| 学校職員  | 1名 0名 |              |                              |
| 会社員   | 0名 1名 |              |                              |
| 情報発信者 | 1名 0名 |              |                              |
| 計     | 10名   |              |                              |

| アンケートの主な調査項目 |  |
|--------------|--|
| 1            | 「日常的に行き来し、よく話している相手」<br>5名以内(名前、属性、きっかけ) |

#### 個人の分析

- ・ PNの形成過程の実態(ヒアリング)
- ・ PNの構造の実態(SNA)

#### 全体的傾向

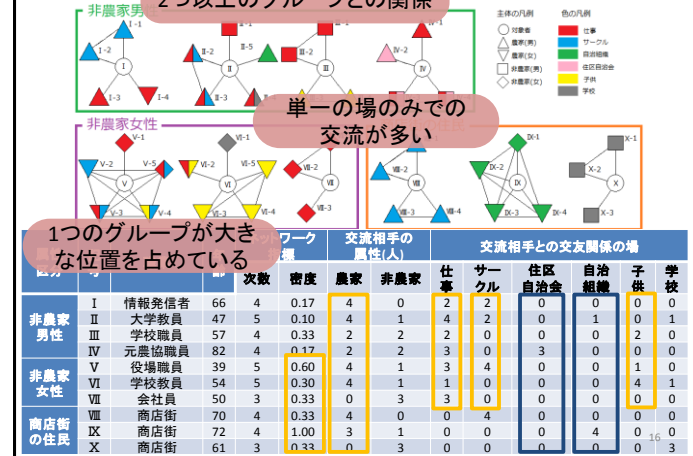
- ・ PNの形成過程の実態(ヒアリング)
- ・ PNの構造の実態(SNA)

14

### 4.2 非農家のPNの形成過程の実態(ヒアリング)

| 交友関係の形成の場 | 商店街の住民   | 非農家男性   | 非農家女性   |
|-----------|--|---|---|
| 仕事        | 常連客との交友関係を形成している                                       | 顔を覚えてくれて挨拶してくれて、ありがたい<br>同僚との交流が多い              | 同僚との交流が多い<br>職場の人と個人的に飲むことは少ない                |
| サークル      | お客さん(農家)に誘われて、お客さん(農家)に誘われて                            | 知り合いの農家に誘われるなどして、交友関係を形成している                    | 知り合いの農家に誘われるなどして、交友関係を形成している                  |
| 住区自治会自治組織 | 昔は商店街での付き合いもあったが、今はほとんどない<br>婦人会は農家の嫁の集まりで、話題が合わなくてやめた | 住区会は土日にやってくれるので参加できる<br>なるべくゴミ拾いなどには参加するようにしている | 子供が小さかったころは親睦活動にも積極的に参加した<br>若妻会に誘われないので参加しない |
| 子供        | 子供の在学中はあったが、卒業後には関係が残らなかった<br>お店が忙しく、子供の部活の手伝いに行かなかった  | 部活動の手伝いなどを通じて、農家・非農家を問わない交友関係が形成されている           | 部活動の手伝いなどを通じて、農家・非農家を問わない交友関係が形成されている         |
| 学校        | 年に数回、出身地の友人と集まる  | 年に数回、出身地の友人と集まる                                 | 年に数回、出身地の友人と会う                                |

### 4.3 非農家のPNの構造実態(SNA)





## 4.4 非農家のPNのまとめ

- ・農家と交流が多い
- ・一人の相手との**単一の場のみ**での交流が多い

### 商店街の住民

- ・「**仕事**」が交友関係形成のきっかけ
  - ・農家との「**サークル**」での交友関係
- 非農家男性・女性(商店街の住民以外)
- ・非農家との「**仕事**」での交友関係
  - ・農家との「**サークル**」, 「**子供**」での交友関係

17

## 5. 農家のPNの形成過程と構造の解明

(目的②)

| 分析対象者 |     | ヒアリングの主な調査項目 |                               |
|-------|-----|--------------|-------------------------------|
| 男性    | 女性  | 1            | 個人のライフヒストリー                   |
| 入植2世  | 7名  | 6名           | 所属している・していた組織(名前, 意欲, きっかけなど) |
| 計     | 13名 |              |                               |

| アンケートの主な調査項目 |   |
|--------------|---|
| 1            | 「日常的に行き来し, よく話している相手」5名以内(名前, 属性, きっかけ) |

### 個人の分析

- ・PNの形成過程の実態(ヒアリング)
- ・PNの構造の実態(SNA)

### 全体的傾向

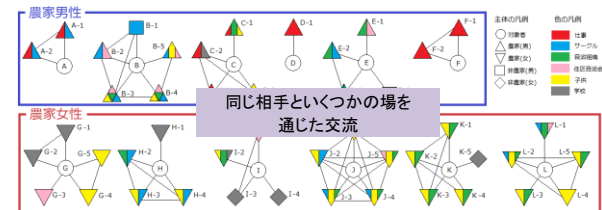
- ・PNの形成過程の実態(ヒアリング)
- ・PNの構造の実態(SNA)

18

## 5.1 農家のPNの形成過程の実態(ヒアリング)

| 交友関係の形成の場  | 農家男性  | 農家女性  |
|------------|---|---|
| 仕事         | 農業をしていく上で重要な交友関係                                      |   |
| サークル       | 同級生の声・父兄からの誘いで集まる場であり, 出会いの場であり, 野球で知り合った交友関係が形成されている | 同級生の声・父兄からの誘いで集まる場であり, 出会いの場であり, 野球で知り合った交友関係が形成されている |
| 住区自治会・自治組織 | 各組織での活動や役員を共に行うことを通じて交友関係が形成される                       | 各組織での活動や役員を共に行うことを通じて交友関係が形成される                       |
| 子供         | 子供ができてからはPTAや子供会での部活動の手伝いなど通じて交友関係が形成されている            | 子供ができてからはPTAや子供会での部活動の手伝いなど通じて交友関係が形成されている            |
| 学校         | 子供ができるまでは同級生や世代が近い人とつるむ。村内の交友関係のベースとなっている             | 子供ができるまでは同級生や世代が近い人とつるむ。村内の交友関係のベースとなっている             |

## 5.2 農家のPNの構造実態(SNA)



| 属性区分 | 記号 | 年齢 | ネットワーク指標 |      | 交流相手の属性(人) |     | 交流相手との交友関係の場 |    |      |      |       |    |
|------|----|----|----------|------|------------|-----|--------------|----|------|------|-------|----|
|      |    |    | 次数       | 密度   | 農家         | 非農家 | 仕事           | 子供 | サークル | 自治組織 | 住区自治会 | 学校 |
| 農家男性 | A  | 57 | 2        | 1.00 | 2          | 0   | 2            | 0  | 2    | 0    | 0     | 0  |
|      | B  | 51 | 5        | 0.50 | 4          | 1   | 0            | 3  | 5    | 2    | 4     | 0  |
|      | C  | 53 | 4        | 0.50 | 4          | 0   | 4            | 2  | 0    | 1    | 1     | 1  |
|      | D  | 49 | 1        | 0.00 | 1          | 0   | 1            | 0  | 0    | 0    | 0     | 0  |
|      | E  | 38 | 4        | 0.17 | 3          | 1   | 0            | 0  | 2    | 3    | 1     | 1  |
|      | F  | 51 | 2        | 1.00 | 2          | 0   | 2            | 0  | 0    | 0    | 0     | 0  |
|      | G  | 51 | 5        | 0.20 | 5          | 0   | 0            | 2  | 0    | 0    | 1     | 2  |
| 農家女性 | H  | 54 | 5        | 0.30 | 4          | 0   | 0            | 2  | 3    | 1    | 0     | 1  |
|      | I  | 41 | 4        | 0.17 | 2          | 2   | 0            | 2  | 1    | 2    | 1     | 3  |
|      | J  | 34 | 5        | 1.00 | 5          | 0   | 0            | 5  | 3    | 3    | 1     | 0  |
|      | K  | 51 | 5        | 0.40 | 4          | 1   | 0            | 4  | 0    | 4    | 0     | 1  |
|      | L  | 51 | 5        | 0.30 | 5          | 0   | 0            | 4  | 2    | 4    | 1     | 0  |

### 5.3 農家のPNのまとめ

- ・農家同士での交流が多い
- ・非農家との交流は少ない
- ・同じ相手といくつかの場で交流を行う
- ・農家との全ての場(女性は「仕事」を除く)での交友関係

21

### ステップ③

## 6. 農家・非農家間の交友関係の特性と今後への課題の解明

22

### 6.1 農家・非農家間の交友関係の特性

○農家・非農家のPNの構造は異なる

- ・非農家は「子供」, 「サークル」での農家との交友関係  
一人の相手との単一の場での交流

非農家は交友関係形成の場が  
限られている

農家・非農家間の交友関係の主な形成の場である  
「子供」, 「サークル」の維持・向上が必要不可欠

特に「子供」は、子供が卒業し、  
関係の必要性が失われた後も維持

23

### 6.2 混住化社会の成熟への課題

農家・非農家間の交友関係形成の障害

- ・意識面の“壁”(差別的な意識と反発意識)
- ・空間面の“壁”(農家住区と非農家住区に分離)
- ・時間面の“壁”(農家・非農家のライフサイクルの違い)

農家・非農家混住区での交友関係の形成が重要

「住区自治会」を通じた交流を増やしていく必要

- ・住民の住区自治会活動参加に対する価値の認識
- ・非農家が参加しやすくする取り組み

美化活動などと共に親睦活動をセット

美化活動には比較的積極的に参加しようという声

「やらないと、他の人に迷惑がかかるから、なるべく出るようにしている」

24



25

## 研究成果と課題

### 研究成果

本研究では八郎潟干拓地においてSNAとヒアリング調査を併用し、農家非農家間の交友関係の形成過程と構造を明らかにし、混住化社会にむけた課題を明らかにした

### 課題

- 調査対象者を増やすことにより、より精緻な検証を行うこと
- フォーマルな関係をも含めた分析を行うこと

26

ご清聴ありがとうございました

